



News Letter



浜松アーツ&クリエイションでは、浜松市内で文化芸術活動に関わる方々にお話を伺っています。今月号は、「音楽」をテーマに、様々な視点から活動を行っている方々にスポットを当て紹介します。今後も、News Letterでは、様々な分野を切り口として魅力的な活動を紹介していきます。次回の特集もお楽しみに！

Glanz Trombone 代表 高山恵太郎さん

「音楽のまち」「ものづくりのまち」と言われる浜松にトロンボーン楽器修理・改造・オーバーホールを専門とした工房があることをご存知でしょうか？今回は、代表の高山恵太郎さんにお話を伺いました。

トロンボーン専門工房

Glanz Tromboneは2020年にオープンした工房です。全国的にも珍しいトロンボーン専門工房であり、主にマウスピース制作・楽器修理・オーバーホール・改造・ベル制作を行っています。特にマウスピースは、プロ・アマチュアを問わず、「長く愛用して頂けるマウスピース」をコンセプトに製作を始めました。今では、浜松市内はもちろんのこと、全国から依頼をいただいています。



マウスピースに対するこだわり

特徴の1つとしては、2ピースマウスピースという「カップ」と「バックボア」を分解して、より好みのマウスピースにいつでもカスタムできるような規格を採用しています。2つのパーツが分解式であることで、どちらかの形状や大きさを変化させることができるため、より



多様で個々に合ったマウスピースを可能にしています。

Glanz Tromboneが目指す未来

将来はトロンボーンという楽器本体をオリジナルで製作したいとの思いがあります。現在は、マウスピースやオーバーホールを行いつつトロンボーンを制作するために必要となる設備を拡充しています。やがてはここ浜松で、演奏者の方々に使用していただけるようなトロンボーンを0から製作したいと考えています。私自身が幼い頃より「ものづくり」に興味があって、楽器を自分の手で創り出すことを夢みて起業した工房なので、表現させたいです。



Glanz Trombone

〒430-0827
静岡県浜松市南区立野町
296



HP



Twitter

著:A&C編

comari (小池真梨)

浜松市出身で、フルート&エアロフォン奏者の小池真梨さんにお話を伺いました。今回お話を伺った場所は、小池真梨さんがよく通われているお店、麵処・珈琲「天小屋」です。幼い頃からの常連さんで、お店での演奏も何回か行っているようです。(写真は「天小屋」の女将さんと一緒に！)

麵処・珈琲「天小屋」
浜松市北区引佐町堀275-2
HP:https://www.amagoya.info/



フルートとエアロフォンの出会いについて

ジュニアオーケストラ浜松に入団するために、小学6年生からフルートを始めました。もともと幼い頃からヴァイオリンの音色が好きで、ヴァイオリンをやりたい気持ちがありました。フルートで演奏活動をしていく中で、ひよんなことからデジタル音楽器が欲しいなと思っていた時に、ローランドからエアロフォンという楽器が出るという情報を見つめました。エアロフォンにはヴァイオリンの音色が入っていて、その音がすごくきれいで、これならヴァイオリンを演奏したいという私の長年の夢が叶うのではないかと思いエアロフォンを購入しました。

エアロフォンの魅力とこれからについて

ここ数年のコロナ禍で気持ちが沈んだりすることもありましたが、エアロフォンを吹くと不思議と気分も明るくなりました。エアロフォンは1つの楽器でいろいろな音を楽しめる楽器です。そして、何

comari
(小池真梨)



HP



YouTube

著:A&C川



むつみとちはやWith

浜松では、3年に一度のピアノコンクールや毎年開催されるジャズウィークなど、市内には多くの音楽があふれる街です。そんな浜松で音楽を全力で楽しんでいる4人組のバンドを紹介させていただきます。

『むつみとちはやWith』の4人です。むつみさん(Vo.Uk.)、ちはやさん(Vo.Gt.)、くれなさん(Key.)、はるさん(Dr.)で構成されるバンドです。元々むつみさん、ちはやさんのDUOだったバンドが浜名湖フォークジャンボリーのステージに立つためにそれぞれの兄・姉をバンドに迎え体制中に。ギターとウクレレだった2人にキーボードとドラムが加わり、バンドサウンドへと変貌！



一聴すれば分かりますが、あどけない見た目と声とは裏腹に演奏力も歌唱力も侮れません。バンド活動をはじめた時期はそれぞれのお父さん、お母さんから曲を選んでもらってたそうですが、一年経つ



た今では次のライブのセットリストは自分たちで選びます。その選曲やそれぞれの楽器の音作りの決さもポイント。活躍は市内の各所のイベントだけに留まらず名古屋や安城など愛知の音楽イベントにも多数出演。バンドリーダーのちはやさんの将来の夢は海外進出！

百戦は一聴にしかず！兎にも角にもまずはYouTubeで一度演奏と彼らのレパートリーをご覧ください。

むつみとちはやwith



YouTube Twitter

イベントの出演依頼も随時受付中とのことです！

著:A&C大谷

おおむらたぐみ

市内で路上ライブをしている「たくみさん」を探せ！
ちょっとヘタ!! 投げ銭ライブ&本気唐辛子



カラフルなでたちで絵本の中からでてきたような風変わりなおじさん。なにやら、銀色の短い笛を手にして遠い国のどこか懐かしい曲を立ち演奏している。胸には「ちょっとヘタ!! 投げ銭ライブ」の彫刻文字っぽい笛がパネル。よく見ると小さく「笛 二胡 バイオリン コンサティナ チェロ 三線 マリネット 笛吹く人 たぐみ」と書いてある。胸には赤いカーットのながに楽器たちが寄り添うように入っている。

カラフルなでたちで絵本の中からでてきたような風変わりなおじさん。なにやら、銀色の短い笛を手にして遠い国のどこか懐かしい曲を立ち演奏している。胸には「ちょっとヘタ!! 投げ銭ライブ」の彫刻文字っぽい笛がパネル。よく見ると小さく「笛 二胡 バイオリン コンサティナ チェロ 三線 マリネット 笛吹く人 たぐみ」と書いてある。胸には赤いカーットのながに楽器たちが寄り添うように入っている。

本日は天竜区横川の百古里(すがり)で毎月18日に開催されている「百古里十八市」で演奏。

旬のお野菜や雑貨など神社の境内で20くらいのお店が並んでいる中で異色だが不思議と馴染んでいる。イベントをひとつにまとめたあげ、見守っているような温かい存在感。それだけで人柄がわかる。応援して見守りたくるような、ちょっとヘタな演奏が素敵。



「下手にライブなし」

マルシェや露店などイベントの企画の中では上手くなっていい。逆に上手いとシラケる。下手な方が皆をちょっと不安にさせて笑にしてくれることが多いと笑いながら語る。

ご子息の結婚式の出し物でかくし芸を仕掛けてやろうと、新聞で目に留まったアイリッシュの笛。790円の安物を手に入れたことから始まる。ただ、結婚式で演奏させてもらえず、その腹いせで路上演奏するようになった。路上での初演ライブは16年前。

「本気唐辛子」

ご自身が28年前に種から栽培して本気で自作農として栽培に取り組んでいる。収穫からパッケージに入るまですべての工程を自分でこなしている。パッケージデザインも自作のこと。演奏の現場でしか売らない。出会うことの楽しみを味わう1つのツールとして、来た人に喜んでもらうために。



「the reason Why」

多くの場に参加する機会を得ているが、そこに参加(出演)する人、登場する人は表情よくそこにいなければいけない。その店の表情をどうやって作って共感できるものを表現できるか。イベント全体の雰囲気づくりに参加する事になり、自分がそこに合った形であることが大事だと語る。表情豊かなイベントになればファンが増え継続性に繋がる。

～なにゆえに～何をするにしても本質をつかむことが大切。

とにかく楽しい路上ライブ。爽やかでしっかり辛く香り深い本気唐辛子。出会ったときは是非たくみさんの人柄に触れてみて。 著:A&C島田



(宮彫り師) の視点

木彫の仕事が始めたころ、私は浜松市春野町の秋葉神社に行きました。境内の新しく整備された参道から少し外れた場所に、高い木々に囲まれ、ひっそりと佇む古い神門がありました。神門の軒先には木彫りの獅子が潜んでおり、その獅子の姿は、子供のころに見たアニメやゲームのキャラクターのような可愛らしさや、どこか妖しげで神秘的な魅力を放っているように感じました。元来の不思議なもの好きな私が宮彫りの世界にどっぷりとはまっていっきかけとなりました。

驚くほどリアルで繊細な人物彫刻、巨大で威圧的な龍、思わず笑ってしまうほどのおちょぼ口な獅子、彫師によって変わる波や雲の表現。私が出会ってきた宮彫りは、個性豊かなものばかりです。「こうでなくてはいけない」という決まりのない宮彫りの世界には、自由で

あるからこそその宮彫り師達のプライドや風味、遊び心が溢れています。

あまりスポットライトの当たることのない宮彫りの世界ですが、皆さんの生活するすぐそばに存在しています。近所の神社、旅先のお寺などを訪れた際には頭上を見上げてみてください。そこには、宮彫り師たちが造り出したワンダーランドが広がっているかもしれません。



小山 広樹 *Miki Koyama*

1986年浜松市出身。京都伝統工芸大学校 木彫専攻卒。岐阜市波雲彫刻で修業。2013年浜松にて独立。さまざまな木彫仕事を請け負う。伝統技術を用いた妖怪作品も制作中。



小山彫刻
instagram



妖怪製作所
instagram

講座

浜松アーツ&クリエイション 市民活動支援セミナー

文化芸術活動パワーアップ講座 - 活動を整理し、活動を伝えるために -

文化芸術活動を行う方々を対象に、活動のビジョン・事業内容・体制・課題等の現状を整理し、「活動を行うことで実現したい目的」、「継続的な文化芸術活動に必要な運営基盤・推進力の強化」について、改めて考える機会としていただける講座を開催します。

12.16金
18:00-20:30

講師 若林朋子(プロジェクト・コーディネーター/
立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任教授)
会場 鴨江アートセンター 201号
参加費 無料
定員 20名程度

申込方法

右記QRコードより
お申し込みください。



今号の表紙



制作者

TORU DSGN / トオル
(グラフィックデザイナー/アーティスト)

表紙テーマ
イメージ

TORU DSGN profile

1988年、静岡県浜松市生まれ。印刷会社デザイン制作部に所属する傍ら、グラフィック・イラストレーション・デジタルコラージュ等の表現方法で作品制作を行う。海外のクリエイターと交流を持ちたく、2018年からInstagramで作品投稿をはじめ。投稿を続けるにつれ反応の良さに驚き創作に没頭。SNSを通して世界中のクリエイターとコミットする楽しさを知り、現在も会社勤務をしながら創作を続けている。

作品制作にあたって

イメージとは?と検索すると、心の中に思い浮かべる姿・像・情景・心象など出てきます。その像を心に描くこと、そのものの有様を示す大体の感じ、だそうです。私はビジュアルを作る時、はっきりとしたイメージは無くテーマもあやふやな状態から、まさに大体こんな感じだろうと作りだしてしまうタイプなんです。今回はその見切り発車する時のあやふやな頭の中のイメージを風景としてビジュアル化しました。

テーマ選定理由

人々は目まぐるしく変化していく中、物事にイメージを描きながら、時にはイメージ通りに、時にはイメージとは違った現実を過ごしています。イメージとは、「人が心の中に思い描く像」。人がそれぞれ持つ知識や経験からその像を描きます。みなさんの描くイメージはどのようなものでしょう? (浜松アーツ&クリエイション事務局)